

いすごえ会 第8回総会

小金井市障害福祉施策について

第12回講演会

高次脳機能障害当事者と家族

萌え木ホール 小金井市前原町 3-33-25

2019

5.18

13:00~16:00

総会・行政報告 13:00~14:00

障害者差別解消小金井市条例の取り組み

加藤真一氏 小金井市福祉保健部自立生活支援課長

講演会 14:15~16:00

高次脳機能障害者の理解と支援に向けて

緑川 晶氏 (中央大学教授)



家族支援の取り組みについて

浜本加奈子氏 (中央大学大学院生)

学生による高次脳機能障害理解の取り組みについて

山下英香氏 (中央大学卒業生)

参加費 1,000円 (会員無料/当日入会の方無料)

主催 高次脳機能障害者小金井友の会 いすごえ会

後援 小金井市



第12回講演会

「高次脳機能障害当事者と家族」の開催にあたって

上田敏 (うえだ・さとし)

いちごえ会顧問、元東京大学医学部教授)

「高次脳機能障害」とは、脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)、脳外傷(交通事故、労災など)、脳炎、低酸素症脳症(心停止後の蘇生など)などで、脳の高次(高度)な機能に障害が残った状態です。

ふつう「脳の機能」といえば「高等なものばかりでは?」と思ってしまうがちですが、脳は手足を動かすからにはじめて、胃腸の動きのコントロール、眠ること・目覚めることにいたるまで、「泥くさい」こともたくさんやっていますので、それらと区別して、記憶、注意、言語機能(話す、聞いて理解する、読み書き)、手順よく物事をやる、道具や器械を扱う、方向感覚、人と付き合う、自分の感情をコントロールする、社会的規律を守る、等々を「高次脳機能」というのです。それが障害されたのが「高次脳機能障害」です。

当事者は、「あれもこれもできなくなった」と喪失感と無力感にさいなまれ、自尊心を傷つけられ、苦しんでいます。さらに、目には「見えない」障害のため、誰も(家族でさえ)この悩みを分かってくれない、という思いがその苦しみを一層強くしています。

しかし、実は家族もまた、「昔とはまるで違った人になってしまった」「赤ん坊に戻ってしまった」ような当事者にどう接してよいかかわからず、悩んでいるのです。さらに「本人は何の悩みもなく、勝手なことをしている」というように見えることも多く、家族を一層苦しめています。一番身近な人たちの間に、このような「心のすれ違い」があるのです。この悩みの解決のためには、お互いの気持ちを理解し合うこと、そして地域社会の人々が理解し支援することが大事です。今回の講演は、臨床心理学の専門家から「当事者と家族の心に寄り添った支援」について詳しく、分かりやすいお話をうかがえる、またとない機会です。

講演者・緑川晶氏の略歴

- 1995年 中央大学 文学部 卒業
- 2002年 中央大学 大学院 文学研究科教育学専攻 博士課程 後期課程 修了(博士(教育学))
- 2000年4月～現在 昭和大学 医学部 神経内科 普通研究生
- 2001年4月～2002年3月 国立身体障害者リハビリテーションセンター病院 非常勤
- 2006年4月～現在 中央大学 文学部 専任講師(2013年より教授)
- 2007年4月～現在 横浜市総合リハビリテーションセンター 心理士

お申し込み 下記の項目を記入してメール・FAXでお送り下さい。

お名前	
郵便番号 ご住所	〒
電話番号	
メールアドレス	
種別	当事者・家族・医療介護職・その他()
メールマガジン	要・不要

※ メールマガジンは、会報(たより)、講演会・交流会などの案内をメールでお送りいたします。

※ 当会で知り得た個人情報は厳重注意し、会の運営や活動以外には利用いたしません。

あて先
TEL 042-401-0051 FAX 042-401-1555
メールアドレス info@ichigoe.org

ホームページでもお申し込みいただけます。
<https://ichigoe.org/>

